

# 第111期中間期 事業のご報告

2022年4月1日～2022年9月30日



## 株主の皆さまへ

第111期(2023年3月期)中間期の事業の概況ならびに決算の内容についてご報告申し上げます。

### ■当社中間期の概要と当社グループの主な取り組み

当中間期の国際的な経済情勢を見ますと、新型コロナウイルス感染症への対応について各国で温度差が見られる中、ウクライナ情勢の緊迫化やそれに伴うエネルギー価格の高騰、原材料不足による物価上昇など、依然として先行きの不透明な状況が続いています。このような情勢の中で当社グループは、開発面では、ハイパワー・長寿命・高耐久の「40Vmaxリチウムイオンバッテリー」(XGT)シリーズの電動工具・園芸用機器をはじめとした充電製品のラインアップ拡充に注力しました。

生産面では、需要環境の変化や地政学的リスクに柔軟に対応し、かつグループ全体での効率の向上を図る生産体制の構築および管理面の強化に取り組みました。

営業面では、地域密着・顧客密着のサービス体制のレベルアップに注力し、世界各地のお客さまとの信頼関係のさらなる強化に努めるとともに、充電製品を軸とした市場の深耕・開拓に取り組みました。



取締役社長 後藤 宗利

取締役会長 後藤 昌彦

### ■6期連続の増収も、為替の影響や原材料価格高騰により3期ぶりの減益

当中間期の当社グループの連結業績は、国内、アジア、オセアニアにおける販売が堅調に推移したことに加え、円安現地通貨高の影響により、売上収益は前年同期比7.4%増の391,318百万円となりました。利益面においては、為替の影響や原材料価格の高騰により原価率が悪化したことに加え、販管費が増加したことから、営業利益は前年同期比58.0%減の21,919百万円(営業利益率5.6%)となりました。税引前四半期利益は前年同期比65.3%減の18,237百万円(税引前四半期利益率4.7%)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は70.7%減の11,078百万円(親会社の所有者に帰属する四半期利益率2.8%)となりました。

### ■カーボンニュートラルへの取り組み

頻発する風水害など気候変動が社会に及ぼす影響が甚大になる中で、気候変動問題の解決に向けて企業が果たすべき役割はより重要なものとなっており、当社グループは「脱炭素社会への貢献」を特に優先して取り組む重要課題(マテリアリティ)として位置付けて取り組みを強化しております。そのため当社グループは現在、電動工具に次ぐ将来の事業の柱として、使用時に排ガスを出さない充電式の園芸用機器に注力し、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。また、温室効果ガス(GHG)排出量の削減に向けて、自社の事業活動でのGHG排出量(Scope1、2)を2030年度までに2020年度比で50%削減し、2040年度までに実質ゼロとすること、サプライチェーン全体でのGHG排出量(Scope3)を2050年度までに実質ゼロとすることを目標として設定しています。2021年度において、Scope1、2のGHG排出量は前期比12.0%減の78,899t-CO<sub>2</sub>となり、売上原単位では27.2%減の10.7t-CO<sub>2</sub>/億円となりました。一方、Scope3のGHG排出量は販売台数および生産台数の増加に伴い、20.9%増の7,264,652t-CO<sub>2</sub>となり、売上原単位では0.5%減の982.6t-CO<sub>2</sub>/億円となりました。

GHG排出量の削減目標値の達成に向けて、引き続き事業活動における省エネルギー化や商用車のEV化に加え、再生可能エネルギーの活用などを着実に進めていきます。

### ■中間配当金は1株につき10円

当社は、年間配当金10円を下限とし、連結配当性向30%以上とすることを利益配分の基本方針としています。当期の中間配当金につきましては、1株につき10円とさせていただきます。期末配当金につきましては、当期の業績が確定する来年4月下旬開催の取締役会において、上記の配当方針に従って配当額を決定し、株主総会において皆さまにご審議いただく予定でございます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 新製品ダイジェスト

## 充電式スライドマルノコ(LS008G)

**速さ、精度、使いやすさ、全ての頂点へ**  
 高速かつ高精度な切断を可能にし、使いやすさを向上させた最大切断幅312mm、左右両傾斜の190mm充電式スライドマルノコです。



墨線見やすい  
**右側**  
 スライドボール採用

最大切断幅  
**312mm**  
 ノコ刃傾斜0°/ターンベース角度0°



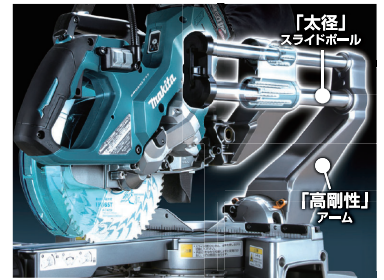
※1 当社190mmAC機比。 ※2 バッテリBL4025装着時。

LS008Gの動画がご覧になれます。

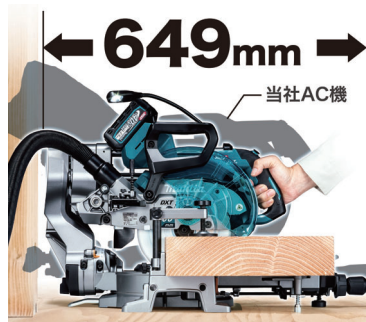
※1  
 切断スピード  
 約**2.5倍**



ハイパワーブラシレスモータ搭載により、切断スピードが当社AC機比で約2.5倍と高速切断を可能に。



太径スライドボールの採用、さらにターンベースとアームに補強リブを追加することで、本機のたわみを抑え高剛性で高精度な切断を実現します。



奥行きが変化しないスライド構造により、壁際で使えるので狭い作業現場に有効。軽量12kg※2かつコンパクト設計で持ち運びもラクラク!



巾木などの内装材の突き合わせに便利な左右45°+1°傾斜に加え、ワイヤレスユニット(別売)を装着すれば集じん機との無線連動も可能。

## 充電式保冷温庫(CW002G/CW003G)

### 充電式保冷温庫に新サイズが登場!

大規模現場や複数人のアウトドアに最適な50L大容量サイズ(CW002G)、自動車内での使用や持ち運びに便利な7Lコンパクトサイズ(CW003G)の保冷温庫を発売しました。マキタの充電式保冷温庫シリーズは用途に合わせてお使いいただけるサイズでラインアップをそろえています。



※1 水や粉じんによって故障しないことを保証するものではありません。 ※2 ペットボトル等のサイズにより収納本数は異なります。  
 ※3 新品未開封、かつコーキング剤メーカーの推奨保管温度内に限る。開封済みのコーキング剤は揮発性のガスが発生しますので食品と一緒に入れないでください。

**CW002G** ※2  
**50L**

90°固定キャリーハンドル、ダンパ付ドア、ドレンコック、インナートレイなど使いやすい機能が充実!

**CW003G** ※2  
**7L**

車の座席や足元にも置くことができ、持ち運びがラクラク!

### 40Vmax充電式保冷温庫シリーズ共通の機能

ドリンクを冷やす、コーキング剤を温める※3など、-18℃~60℃まで14段階で温度設定が可能!

保温(℃)						
30	35	40	45	50	55	60
保冷(℃)						
-18	-15	-10	-5	0	5	10

40Vmaxバッテリー、18Vバッテリー、家庭用電源AC100V、シガーソケット電源(12-24V)が選べます。





## 充電式ヘッジトリマシリーズ(MUH308D/368D/408D/468D)

### 高耐久でハイパワーな刈り込みを実現

よりハードな作業に対応するために、300mm台クラス充電式ヘッジトリマにおいて初めて※1ブラシレスモータを搭載し、耐久性と作業性を向上させたヘッジトリマシリーズです。



※1 当社300mm台クラスヘッジトリマにおいて、2022年4月現在、当社調べ。 ※2 水や粉じんによって故障しないことを保証するものではありません。



### 高耐久を実現した「新」クランク機構※1



「厚型」クランク採用で、高負荷時でもクランクが外れにくい構造かつ、ブレードとの接触面積が増えることで摩耗が低減し、耐久性がアップ。

### ハイパワーブラシレスモータを搭載



300mm台クラス充電式ヘッジトリマにおいて初めて※1ブラシレスモータを搭載したことで、出力が向上。

### 鋭い切れ味の挿み刃形状



上刃と下刃がかみ合うときだけ接触する角度が付いた形状で、枝葉を捉える導入性と切れ味に優れ、美しい仕上がりを実現。

## 充電式背負ブロワ(MUB002CZ)

### 広い範囲を長時間パワフル吹き飛ばし!

充電式でありながら、50mLクラスのエンジンブロワを超えるパワー※1を有し、「長時間」の連続運転を可能にした上、「圧力的」な低騒音と排ガスゼロで環境に配慮した製品です。



※1 当社背負式エンジンブロワ機 最大風量比。2022年6月現在当社調べ。 ※2 雨の中での使用等に耐える製品仕様となっていますが、故障しないことを保証するものではありません。 ※3 水や粉じんによって故障しないことを保証するものではありません。 ※4 数値は参考です。バッテリーの充電状態や作業条件により異なります。 ※5 EN50636-2-100準拠の実測値。



ハイパワーブラシレスモータを搭載したことで、50mLエンジン式を超えるパワー※1で「長時間」連続運転が可能になりました。

背負式により、反動や重量による腕の疲労を軽減。

「大容量」ポータブル電源(別販売品)専用設計により長時間作業を実現。



多翼13枚ファン+排気流路への吸音材配置で低騒音設計。

最大風量  
19.0 m<sup>3</sup>/min

最大風速  
71.7 m/s  
(平均風速)  
60.0 m/s

体格・姿勢に合わせてグリップ位置の調整が可能。

連続運転時間(mph)  
約45分  
最大風力 22N時  
約8時間55分  
(最小3割)



## 日本における販売・サービス拠点網の拡充

当社は顧客・地域に密着した業界随一の販売・サービス拠点網を有しており、迅速かつ安定的にきめ細かく製品・サービスを提供することにより、販売店さまの支援や地域のユーザーの皆さまの作業効率・生産性向上に貢献しています。

販売・サービス体制のさらなる強化のため、国内ではここ数年、拠点網の拡充を積極的に進めており、2022年4月には沖縄支店（沖縄北営業所併設）を、10月には岡山支店（岡山物流センター、岡山北営業所併設）、所沢営業所を開設しました。農業、林業等が盛んな地域を担当エリアとする新設営業所もあり、充電式園芸用機器（OPE※）の販売拡大に向けて大きな役割を担います。

129カ所の営業所を基盤に、引き続き顧客・地域密着の営業体制およびサービスの強化・向上と充電式OPEの拡販に努めてまいります。

※OPE…Outdoor Power Equipmentの略称。



沖縄支店（沖縄北営業所併設）



岡山支店（岡山物流センター、岡山北営業所併設）



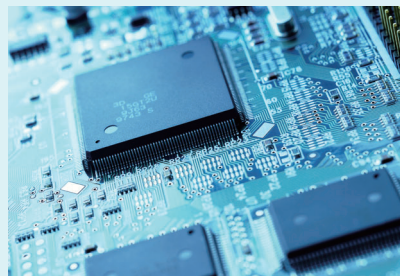
所沢営業所

## 半導体取引に特化した合併会社を設立

2022年7月、株式会社マクニカと共同出資を行い、台湾において半導体取引に特化した合併会社（連結子会社）を設立しました。

当社が注力する充電製品には多くの半導体が使用されているため、半導体を安定的に調達することは重要な課題となっておりますが、現在の世界的な半導体不足に加え、脱炭素社会の実現に向けた化石燃料駆動から電気駆動へのシフトなどにより、ますます半導体調達の厳しさが増すことが想定されます。

今回半導体取引に特化した合併会社を設立することで、半導体を安定的に調達し、「充電製品の総合サプライヤー」に向けて、調達力を強化していきます。



## 東京都に電子制御開発の拠点を開設

現在、当社は環境に優しく利便性が良い充電製品の開発・生産・販売に注力しており、お客さまの多様なニーズに応えるため、充電製品のラインアップを積極的に拡充しています。

これまで開発キャパシティの拡大に取り組んできましたが、より一層の技術者確保を目的として、2022年10月、東京都品川区に電子制御開発センター（東京オフィス）を開設しました。

東京都に新たな開発拠点を設けることで、関東エリアに在住する電子制御技術者の獲得が期待できます。



## マキタ・オーストラリア

### オーストラリアにおけるマキタ

オーストラリアは先進国でありながら、鉄鉱石、天然ガス等、世界有数の資源大国でもあります。多民族国家という背景もあり、その国民性はオープンマインドの新しい物好きで、新製品の導入に積極的です。

工具のコードレス化が進んでいることに加え、人件費が高いこともあり、コスト削減に効く高性能なブラシレスモータを搭載した充電製品が主流となっています。


来年、マキタ・オーストラリアは設立50周年を迎えます。

高い品質と半世紀に渡る地道な販売・サービス活動で培われたマキタブランドへの信頼は非常に厚く、長年トップブランドとして認知されてきた電動工具のみならず、園芸や清掃業界においても存在感を高めています。


会社名: Makita (Australia) Pty. Ltd.  
 設立: 1973年5月  
 本社所在地: ニューサウスウェールズ州  
 ペマルウィー(シドニー郊外)



● 本社 ● 支店  
 ● FSC ※直営サービス拠点(Factory Service Center)



マキタ・オーストラリア本社



好評のコンボキット(DK0115G601)

### 「充電式OPE※のマキタ」確立に向けて

※OPE…Outdoor Power Equipmentの略称。

近年は特に充電式OPEの拡販に取り組んできました。エンドユーザー訪問や実演等の営業活動の他にも、TV・ラジオ・インターネットといったメディアやフットボールスタジアムでの広告宣伝活動も積極的に行いブランド認知度の向上を図りました。また、市場調査を実施し、当地で求められているスペックの充電式芝刈機を市場投入したことで販売が一気に拡大しました。その後もユーザーニーズを捉えた新製品を市場に投入し「充電式OPEのマキタ」という地位を確立することができています。

また、園芸業界のみならず清掃業界でも使用されることが多いのが充電式ブロワです。業務用充電式クリーナと充電式ブロワの両方を取りそろえている豊富なラインアップが当社の強みであり、当社にとって新規参入となる清掃業界でのブランド浸透に効果を発揮しています。



充電式芝刈機(DLM464)

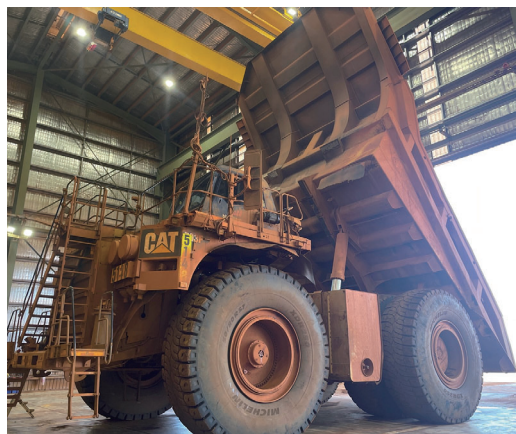


充電式ブロワ(UB001G)

### これからのマキタ・オーストラリア

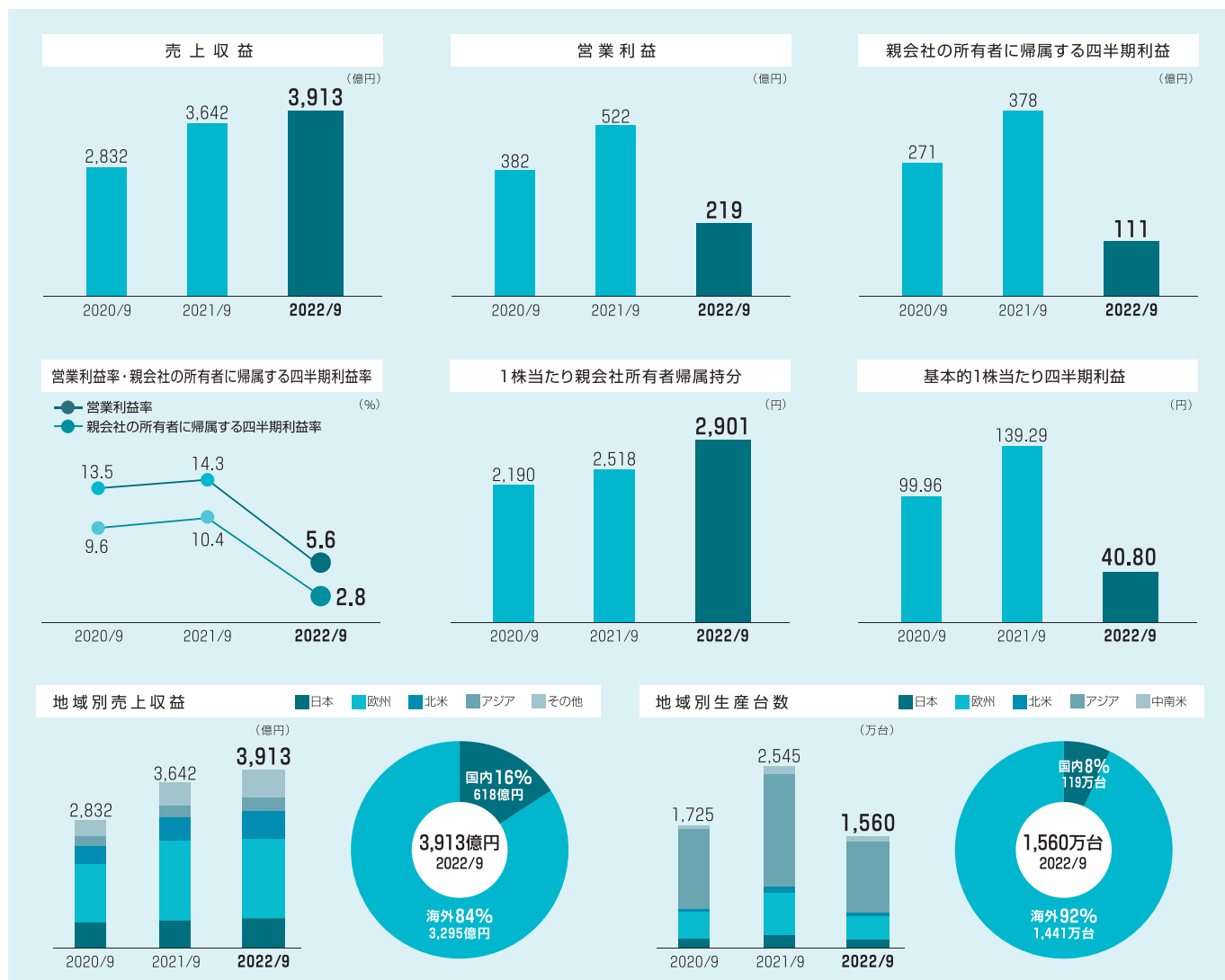
オーストラリアは世界的な脱炭素シフトで需要が急増する希少金属や希土類についても豊富な埋蔵量を誇り、新たな資源需要が生まれる好機が訪れています。鉱山で使用される大型重機や設備のメンテナンスにおいては、過酷な作業に耐え得る、高出力で高耐久な電動工具が求められています。

こうしたニーズに応えることができる40Vmaxシリーズは新たなソリューションの提供を可能にする大きな可能性を秘めています。これはエンジン式から充電式へのシフトが進む園芸業界、コード付きからコードレスへのシフトが進む清掃業界においても同様です。新技術を市場に迅速に浸透させることで社会課題解決に貢献すると同時に、さらなるマーケットシェアの拡大を目指してまいります。



(右)採掘現場で40Vmaxシリーズの充電式インパクトレンチを使用している様子  
 (左)ダンプカーのメンテナンスの様子

# 主な経営指標(IFRS)



(単位: 百万円)

	2020年9月中間期	2021年9月中間期	2022年9月中間期	増減率(%)	2022年3月期
売上収益	283,156	364,230	391,318	7.4	739,260
営業利益	38,165	52,160	21,919	△58.0	91,728
営業利益率	13.5%	14.3%	5.6%	—	12.4%
税引前利益	38,273	52,600	18,237	△65.3	92,483
親会社の所有者に帰属する四半期利益	27,141	37,820	11,078	△70.7	64,770
親会社の所有者に帰属する四半期利益率	9.6%	10.4%	2.8%	—	8.7%
資本合計	599,319	689,518	793,952	15.1	752,530
資産合計	712,384	850,842	1,155,694	35.8	1,007,497
親会社所有者帰属持分比率	83.5%	80.4%	68.2%	—	74.1%
設備投資額	23,434	28,158	22,996	△18.3	59,937
減価償却費	6,436	8,127	9,900	21.8	17,639
研究開発費	6,306	6,905	7,515	8.8	14,145
従業員数(人)	17,885	19,592	19,794	1.0	20,233
基本的1株当たり四半期利益(円)	99.96	139.29	40.80	△70.7	238.54
1株当たり配当金(円)	10.0	10.0	10.0	—	72.0

(注)上記およびこの報告書に記載している金額は原則として百万円未満を四捨五入して表示しています。

## ホームページのご案内



<https://www.makita.co.jp/>

当社ホームページでは、業績の推移、決算情報、プレスリリースのほか、決算発表日などの情報をタイムリーに提供しています。

▶ **会社概要** <https://www.makita.co.jp/company/>

▶ **株主の状況** [https://www.makita.co.jp/ir/stock\\_bond/stock\\_bond\\_04.html](https://www.makita.co.jp/ir/stock_bond/stock_bond_04.html)

▶ **株式事務手続きのご案内** [https://www.makita.co.jp/ir/stock\\_bond/stock\\_bond\\_05.html](https://www.makita.co.jp/ir/stock_bond/stock_bond_05.html)